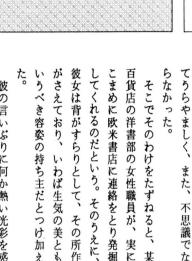
No. 17

昭和63年11月26日

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9 京都府立図書館内 TEL(075)771-0069





てうらやましく、また、不思議でな の洋書をつぎつぎと入手するのを見 ある友人が、絶版になっているはず とおなじく西洋史学を専攻していた 大学三年のときのことだった。 私

彼女は背がすらりとして、その所作 こまめに欧米書店に連絡をとり発掘 いうべき容姿の持ち主だとつけ加え がさえており、いわば生気の美とも してくれるのだという。そのうえに、 百貨店の洋書部の女性職員が、実に

のである。 れるのだ、 にかく弟のようによく面倒を見てく う表情で、 ろが意外と、 とぶしつけに切り込んでいた。とこ 受した私は、すかさず君の恋人か、 彼の言いぶりに何か熱い光彩を感 書物の注文に関してはと という弁明をくり返した 彼はとんでもないとい

繰るときの心のときめきは、 きらめていた本を手にしてページを に通うようになっていた。なかばあ いつしか私もその百貨店の洋書部 いまも

所を共有することによって生まれる

共感を基礎として成り立つと考えら

れた。



知るは楽し 本とのであい」

京都市伏見中央図書館長

津 村 俊 勝

記憶としてなまなましい。

知れない。 若者たちの間に芽生えていたのかも さとはほど遠い「愛知」の共感 本を介して、仕事上の事務的な冷淡 がこもっていたのをおぼえている。 すら私の幸運を祝福してくれる響き ンパシー)が、彼女と私たち向学の いまから思えば、探し求める一冊の たことを知らせる彼女の電話の声に おかげで卒業論文の執筆もはかどっ 自分の苦労は棚にあげて、ひた 注文した書物が発掘され到着し **・**シ

実に鮮やかで、 パッと一斉に方向変換する。それは の神経で行動しているかのように、 ひと群れの鳥が相当なスピードで飛 よるとみなされ、 とは絶対にない。 んでいて、その群れがあたかも一本 いころの体験談がよみがえってくる。 先生はそのわけを集団的直感力に 共感といえば、 鳥同士が衝突するこ それは、 今西錦司先生の若 なぜだろう。 共通の場

> で購入した五万冊の本が八回転した した。 月二十八日で開館後まる一年を経 書館のシンボル標語である。去る八 ことになり、一億円が八億円の効果 冊を越え、 したが、その間の貸出冊数は四十万 な投資だったといえよう。 をあげたことになる。たいへん有効 ところで、 本とのであい」は、伏見中央図 登録者数は二万五千人を突破 四十万冊といえば、約一億 利用者数は十九万人に近 本稿の題名「知るは

る。 教養、 に似ている。 弦楽団が同じ楽器の集まりでないの の集まりである。それはちょうど管 たち職員は、それぞれちがった個性、 調和のある美しい音色をだすのであ 開館をめざしてとり組んできた私 趣味をもち、 しかし全体としては、 年齢もさまざま

る。 ち職員の間に、 たいのは、 を必ずはぐくんでくれると思って した図書館を創造する集団的直感力 てひろがっていくことである。 たような「愛知」 K 働く中で醸成される共感は、 おなじ目的をもち、 加えてこれからも執心していき 利用されるお客様と私た 私が若いころ体験し の共感が波紋となっ 共通の場で共



図 (書)館(め)ぐ(り

る町です。 老山にいだかれた自然あふれ る和知町は、 京都府のほぼ中央に位置す 清流由良川と長

うになりました。 昭和五十七年九月、 ペースで利用してもらえるよ 工事を行い、ゆったりしたス 伴って、昭和六十一年に拡張 オープンしました。開設当時 その和知町の中央公民館に、 四七〇冊に増え、それに 四五〇冊だった蔵書も一 図書室が

中央公

民

和知町

人で、 ということから、 町は集落が散在し、交通の便も悪い 達に紙芝居を行っています。 夏休みにはこの巡回にあわせて子供 集落を巡回しています。また、 時に移動図書も始め、 の人口の三〇%に当たる一、三六七 「みどり号」によるものです。 このうち三〇%は移動図書 六十二年度の利用者は五、 貸出冊数は八、一八九冊で 利用状況は、登録者数が町 図書室の開設と同 毎週火曜日各 和知 毎年 \bigcirc

協力を得て図書室ができました。 「ふれあいハウス」に府立図書館の 今年の九月には、 公民館図書室や移動図書とは 駅舎を改築した 場

都

建物は、木造二階建で、一

階には、

幼児コーナー、京都 児童・成人書貸出

コーナー、

コーナーを設けた図書室があっ

市

て活動していきたいと思っています。 違った層の利用があります。 今後も小さな図書室は小さいなり 利用者とのふれあいを大切にし



の史跡があります。 りの「大石神社」「岩屋寺」 浪士で有名な大石内蔵助ゆか 旧跡が多々ありますが、赤穂 たものです。周囲には、 十八年に現在地に移転してき 五百冊でスタートし、 育会館山科分館として、蔵書 昭和二十七年に京都市社会教 「科図書館の歴史は古く、 名所• 昭和四

図

館

山科

設コーナーを設置し、 て、 を図っております。 季節に応じた図書を配架している特 芝居・ビデオ等の行事を行ったり、 館作りの一環として、映画・大型紙 の状態です。 特に学生達に人気があり一日中満席 覧室があり、 二階には、 が、この階に配架されております。 当館の蔵書約四万五千冊の大半 五十人余の席を設けた閲 年鑑・辞典ものが多く、 又、親しみやすい図書 利用者の便宜

ており、 すと、一日七二一冊の図書を貸出し 人になっております。 当館の六十二年度の実績によりま 登録者数も九千九百六十二

同努力してまいりたいと考えており なるよう条件整備の充実に、職員一 これからも区民の生涯教育の場に



第二回理事会報告

に協議されました。 予算に関する要望書等の提出を中心 十六日府立図書館で開かれ、来年度 今年度第二回目の理事会が十月二

出することになりました。 立図書館振興に関する要望書等を提 てきており、 設として位置づけられるようになっ を進める上で最も基本的で重要な施 れる通り、 国の社教審の中間報告等にもみら 公共図書館は、 今年度も関係機関に公 生涯学習

また、 の作成(文書発送時等に必要)につ について、 会からは今年度二号目の会報の発行 の編集作業を進めている。 在「逐次刊行物所蔵目録・改訂版」 らは来年一月印刷発注を目途に、現 旨の報告があり、 ループの研究活動を軌道にのせたい り、 いて提案され、 次に、 研修研究委員会からは三つのグ 三つの専門委員会の委員長印 各専門委員会から報告があ それぞれ報告されました。 了承されました。 相互協力委員会か 広報委員

館 の 異

久御山町立図書館

旧 田 森 \mathbb{H} 和 義

П 清

児童奉仕研究グループ 活動について

八幡市民図書館 城戸 進

定がテーマとなりました。 は何かと検討した結果、児童書の選 ループの第一回研究会を開催しまし 六十一年十一月に児童奉仕研究グ 児童奉仕において切実なテーマ

児童書の選定に関する連続講座を開 ばならないという結論に到達しまし はまだまだ各自の力量を高めなけれ めざすことになりました。 た。そこで先達の講師をお招きして 立など、このテーマを深めていくに 書の基準やチェック・ポイントの確 介したりなど試行を重ねた結果、選 入状況など発表して一覧表にまとめ まず各館の選書方法、問題点、 各自が実際に選んだ絵本を紹 当グループの水準の向上を 購

のであれば、児童奉仕研究グループ 他府県から講師に来て頂く

> 以外の方にも参加してもらおうと児 京図協全参加館に案内しました。 童書選書研究講座の連続開催とし、

実務的できめ細かな内容でした。 であるレジュメに即しての講義は、 る講義は児童書の選定総論と各論 他)でした。毎回ぎっしり書き込ん 方市立菅原図書館長)で、三回に渡 (絵本、文学作品、 まず第一講は川上博幸氏 知識の本、その (当時枚

S

を、 間であること」「子どもとことば」 題であり、又選書を支える理念でも 説されていました。 きる人間に必要なものとしての本」 との本質的設問から、「よりよく生 らを基に「人はなぜ本を読むのか?」 岩波新書)を読んでの参加で、それ 頂きました。二冊の課題図書(「人 て、児童奉仕や選書について論じて かちあう姿勢」で選書する必要を力 ある子供や人間を深く知る事を通し 書館長)に、具体的な選書以前の問 第二講は小寺啓章氏(太子町立図 「子供と本のもたらす喜びを分

上の参加がありました。 本について)、選書と書評 な内容でした。 ついて)と二回の講義はかなり高度 倍野図書館員)で、選書と配架(絵 (六十三年七月)まで毎回二十名以 第三講は小前恭則氏(大阪市立阿 最後の第九回研究会 (読物に

便 利 に な つ た

京都市中央図書 館

ました。 なかった地域にも巡回を始め 月十九日から巡回地域を大幅 書館の移動図書館が、本年九 を巡回している京都市中央図 に拡大して、 今まで回ってい

W

N

e

になりました。 る個人貸出制度に変え、どな 広く市民の皆さんを対象とす みを対象としていましたが、 などに加入しておられる方の たでもご利用いただけるよう 貸出冊数は、 また、これまでは読書団体 一人五冊以内

1 C D 導 λ

向

日

市立図

書

館

雑誌コーナーの横に、リスニ カセットテープを置いていま 月の開館当初からレコードと 資料として昭和五十九年十一 ングコーナーとして四席へッ 館内の中庭に面した新聞・

移 動 义 書 館

図書館の利用が困難な地域

で、貸出期間は次の巡回日ま

ます。

ス

での約一か月となっています。

向日市立図書館では、

ドホンで聞けるように設けてありま

ました。 テープまで約六百タイトルを収集し ラー音楽、 を加え、クラシック音楽からポピュ 新たにコンパクトディスク (C・D) 開館四年目の昭和六十三年度に、 邦楽、 童謡、漫才、

が出来るようにしています。 統計もコンピューターで簡単に処理 を打ち込みMARC化してあります が、今後も毎年度購入をしてタイト に人気がありよく利用されています 奏者等からの検索や、 ので、タイトル検索の他作曲者、 ル数を増やしていきたいと考えてい 幼児からお年寄りまであらゆる層 資料は全て自館で分類してデータ 利用に関する

り取扱いが簡単な上収録量も多く、 これからの聴覚資料として注目すべ ンパクトであり、 きだと思われます。 特にC・Dは、 カセットテープよ レコードに比べコ

近畿地区研究集会日

○近公図整理部門研究集会 奈良県

月一日

○近公図参考事務研究集会 京都府

二月九日

夏休み読書子ども会

Ш 町

立 义



豊かな読書感想文を発表しました。 つ二十二名の代表が出て、読書の感 日を過すことができました。 ダー作り) 次いでオタノシミタイムでは、 町内の各小学校から全学年数名ず 映画、紙芝居、 思い出、 (今年は皿まわし曲芸とキイホ 本との出会いなど感性 などをして、有意義な 人形劇、手品、

子ども会」 書の楽しさを取り戻し、長い夏休み 離れが話題となった頃、 の読書生活の端緒、指標になればと 始められたものです。 百人近い子どもや父兄の参加を得て、 中央公民館で開かれました。 テレビの普及で子どもたちの読書 例年八月一日開催の「夏休み読書 が今年二十回目を迎え、 なんとか読

研修研究委員会二

63年度の当委員会は、7月7日(木)にその事 業の大綱を決めたことは既報(Na16)のとおりで すが、その他の活動及び計画などは下記のとおり です。

1 京都家庭文庫地域文庫連絡会との共催事業 (講演会) について

- (1) 日 時 昭和64年1月23日(月) 予定
- (2) 場 所 京都府立勤労会館
- (3) 講 師 増山 均 氏 (日本福祉大学助教授)
- 「子育てについて」(仮題) (4) 演 題 なお、細部について具体化しましたら、別 途お知らせします。

研修会について 2

情報をお寄せ下さい

- (1) 日 時 昭和64年3月初旬 予定
- (2) 場 所 峰山町立図書館

広報委員会だより

年も、 鴨川には冬を告げるユリ

面

(3) テーマ 小規模図書館の課題

7 きました。 長 来るだけ います。 めぐり」 の津村俊勝氏から、 今号には、 映しています。 モメが飛来して、 本紙に関するニュー 前号から掲載を始めました では、 紹介して行きたいと考え 京都市伏見中央図書 府下の図書館 優美な姿を川 原稿をいただ スや行事等 図

(4) 発 峰山町立図書館 予定 麦 丹後町中央公民館 予定

(5) その他 図書館広報資料の交換 なお、細部について具体化しましたら、別 途お知らせします。

研究会について

- (1) 児童奉仕研究会
 - 6月3日、テーマ:「選書と配架」
 - 一主に絵本一、講師:小前恭則氏(大 阪市立阿倍野図書館) 参加者22名
 - 7月1日、テーマ:「選書と書評」
 - 一主に読み物 一、講師:小前恭則氏 (同上) 参加者21名
 - なお、両研究会とも高度な内容の講演 と実りの多い研究会で、前リーダーの城 戸氏(八幡市民図書館)にお世話いただ きました。
- (2) 障害者奉仕研究会
 - 障害者奉仕の"実態調査(府下)" 〈前年度事業〉のまとめと報告を年度内 に予定。
 - 今年度の研究目標は検討中
- (3) 参考事務研究会
 - 前年度5回の事例研究会(参加者延54 名)を実施し、ひと区切りをつけました。
 - 10月6日(木)、テーマ:「レファレ ンスと私 ― 参考事務の原点を考える | 講師:浜辺府立図書館長で質疑応答、 参加者28名
 - 次回の研究目標は検討中。年度内1~ 2回を予定しています。